

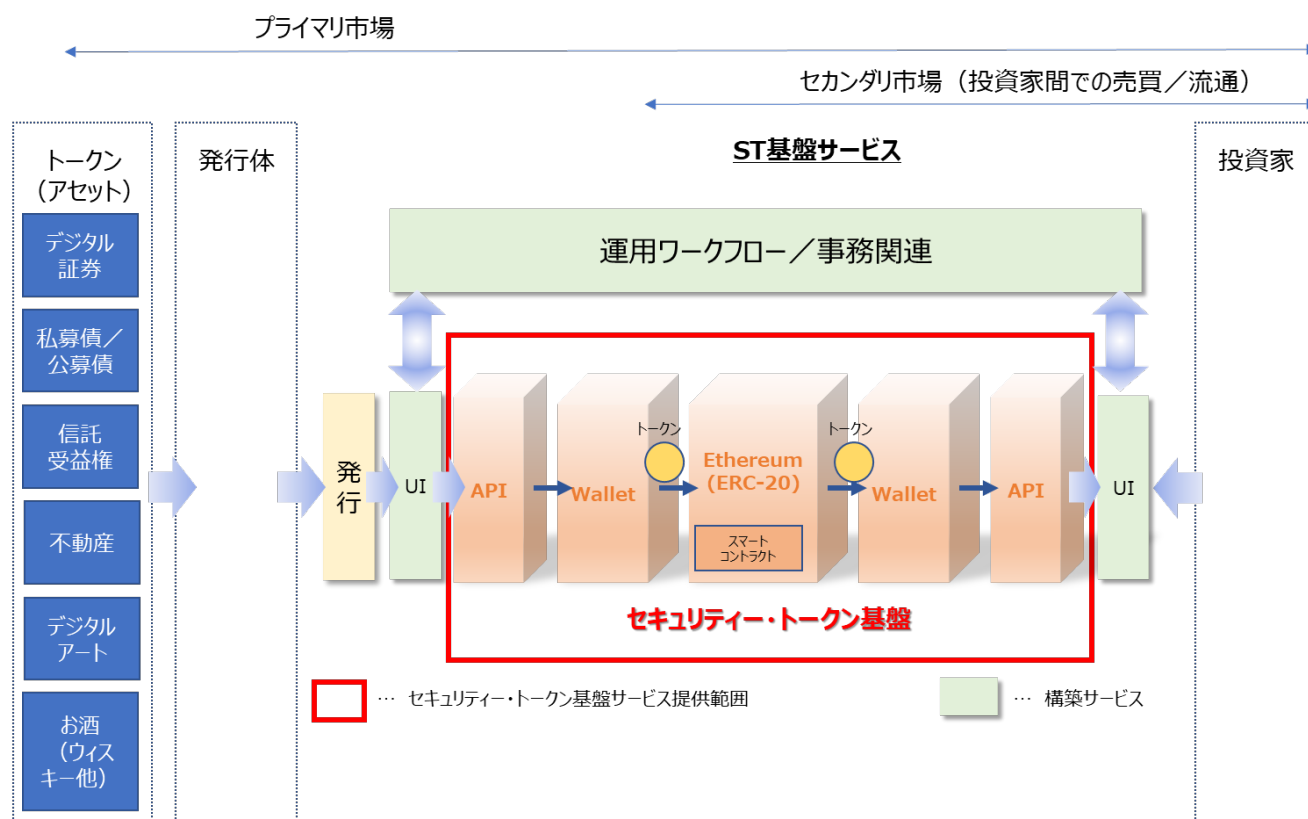
日本ユニシス デジタル証券市場に向けて 「セキュリティー・トークン基盤サービス」を来春提供開始

日本ユニシスは、デジタル証券市場において、ブロックチェーン上で権利の発行や移転などを行う「セキュリティー・トークン基盤サービス」の技術検証を実施し、来春のサービス提供を目指します。

本サービスは、日本ユニシスが2020年から提供を開始し多方面での実績がある、電子チケット流通サービス「Kimaticke（キマチケ）」で培った、ブロックチェーン上で権利の発行・移転などを行う技術や知財と、署名用秘密鍵（Wallet）を連携させ、金融業界の厳しい規制に耐えることができる、強固なセキュリティーを持つサービスです。

【背景】

現在、デジタル証券市場ではセキュリティー・トークン（以下、ST）を活用した新たなビジネスが生まれています。日本ユニシスは、今後資金調達の大きな手段となり得るデジタル証券市場で、企業や個人投資家が資金調達をより簡単に行うために、今まで培ってきた伝統的有価証券のノウハウをもとに金融機関で安全に使用できるサービスを検討してきました。ブロックチェーンは、暗号資産などセキュリティー上の課題がありますが、Wallet と連携させることでこの課題をクリアし、安心、安全な基盤サービスを提供することができます。



【「セキュリティー・トークン基盤サービス」概要】

日本ユニシスが提供するブロックチェーン上での発行、移転、償還などの技術知財やノウハウを利用しセキュリティー・トークンを Ethereum^(注1) 上で統一的な規格「ERC-20」に準拠させることで Wallet を使った安全な取引、保管、管理を実現できます。日本ユニシスは、Wallet の技術検証を行い金融機関でも安心して使うことができるサービスを提供します。

主な特徴は以下のとおりです。

1. 一般社団法人日本 STO 協会が公開している「電子記録移転権利等の発行市場を担う基幹システムのガイドライン」^(注2) で開示された基本機能のうち、主要機能（一部を除く）、付随機能を実現
2. Wallet（コールド Wallet／オフライン管理）・マルチシグ方式（複数管理）により、適切な権限のもと、安全な ST の取引、保管、管理オペレーションの実施環境を提供
3. ST 基盤サービスが持つ機能を外部システムが利用するための REST API の提供
4. ST 基盤サービスと既存の外部システムと容易に連携するためのバッチ連携ツールの提供
5. Microsoft Azure 上で稼働

【今後の取り組み】

日本ユニシスは、金融商品だけでなく、さまざまな権利をトークン化し今後成長が予想されるデジタル証券市場に対して来春を目途にサービスを提供します。

今後、NFT(Non-fungible Token／非代替性トークン) を意識した規格「ERC-721」への対応も検討し、デジタルアート、環境価値／証書など偽造不可な鑑定書 & 所有証明書付きのデジタルデータなどに対応したサービスへと成長させていきます。

以 上

注1：Ethereum

ブロックチェーン技術を利用した分散型アプリケーションを構築するためのプロトコル。ERC-20 などのトークン規格が提唱され、スマートコントラクトとして実装することができる。

注2：「電子記録移転権利等の発行市場を担う基幹システムのガイドライン」

令和2年4月23日に一般社団法人日本 STO 協会が「次世代金融資本市場の創出と発展」、「安全な取引の確保」及び「技術革新への柔軟な対応」という3つの原則を軸に基幹システムとして必要とされる基本的な機能や要素などを定める体系的な共通の指針として策定したものを。

■関連リンク

電子チケット流通サービス「Kimaticke」

<https://www.unisys.co.jp/solution/biz/blockchain/kimaticke/>

※Kimaticke は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

https://www.unisys.co.jp/newsrelease_contact/